いまさら Fortran 入門

はじめに1

- 自然科学では連立一次方程式を解く機会が たくさんある。
 - 連立 n 次方程式を, (線形化して)連立一次方程 式にして解くこともある.
 - 微分方程式を,連立一次方程式に変形することで解くこともある.

はじめに2

・ 説明のために次の連立一次方程式を考える.

$$a_{1,1}x + a_{1,2}y + a_{1,3}z = b_1$$

 $a_{2,1}x + a_{2,2}y + a_{2,3}z = b_2$
 $a_{3,1}x + a_{3,2}y + a_{3,3}z = b_3$

- このような方程式を解く方法は大きく分けて下の 二つの種類がある。
 - 直接法
 - 反復法
- ここでは,直接法の一つであるガウス・ジョルダン の消去法を考える.

行列を用いた表記

先の方程式は下のように書き直すことができる。

$$\begin{pmatrix} a_{1,1}a_{1,2}a_{1,3} \\ a_{2,1}a_{2,2}a_{2,3} \\ a_{3,1}a_{3,2}a_{3,3} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$$

そして,この方程式を解くことは,何らかの方 法で下のように変形することに等しい.

$$\begin{pmatrix} 100 \\ 010 \\ 001 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} c_1 \\ c_2 \\ c_3 \end{pmatrix}$$

ガウス・ジョルダンの消去法 (1)

・ 説明のために下の方程式を考える.

$$\begin{pmatrix} 2 & 4 & 6 \\ 2 & 6 & 8 \\ 4 & 10 & 10 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 20 \\ 16 \\ 40 \end{pmatrix}$$

ガウス・ジョルダンの消去法 (2)

- 方程式は下のような手順で変形すればよい.
 - 1. 1行目を 2 (= a_{1,1}) で割る.

2. **1**行目に 2 (= $a_{2,1}$) をかけ, 2 行目から引く.

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 2 & 2 \\ 4 & 10 & 10 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -4 \\ 40 \end{pmatrix}$$

3. **1**行目に $4 (= a_{3,1})$ をかけ, 3 行目から引く

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 2 & 2 \\ 0 & 2 & -2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -4 \\ 0 \end{pmatrix}$$

ガウス・ジョルダンの消去法(3)

4. **2** 行目を 2 (= $a_{2,2}$) で割る.

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 2 & 2 \\ 0 & 2 & -2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -4 \\ 0 \end{pmatrix} \longrightarrow \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & -2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -2 \\ 0 \end{pmatrix}$$

5. **2** 行目に 2 (= $a_{3,2}$) をかけ, 3 行目から引く.

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & -4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -2 \\ 4 \end{pmatrix}$$

ガウス・ジョルダンの消去法 (4)

6. 3 行目を -4 (= $a_{3.3}$) で割る.

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & -4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -2 \\ 4 \end{pmatrix} \qquad \qquad \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -2 \\ -1 \end{pmatrix}$$

7. **3** 行目に 1 (= $a_{2,3}$) をかけ, 2 行目から引く

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

8. 3 行目に $3 (= a_{1,3})$ をかけ, 1 行目から引く

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 13 \\ -1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

ガウス・ジョルダンの消去法 (5)

7. 2 行目を 1 (= $a_{2,2}$) で割る. (ここでは変化なし)

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 13 \\ -1 \\ -1 \end{pmatrix} \qquad \qquad \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 13 \\ -1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

8. 2 行目に 2 (= $a_{1,2}$) をかけ, 1 行目から引く.

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 15 \\ -1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

ガウス・ジョルダンの消去法 (6)

- この方法がガウス・ジョルダンの消去法である.
 - ここまでに説明した手順には,いくつかの規則的な処理によって構成されている.
 - その規則性を理解できれば,「繰り返し」(do ループ)
 によってプログラムで処理できる.

なお,この方法では,行列の対角成分がゼロの場合,工夫が必要である(ピボット選択).

ピボット選択 (1)

・ 次に,下の方程式を考える.

$$\begin{pmatrix} 2 & 4 & 6 \\ 2 & 4 & 8 \\ 4 & 10 & 10 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 20 \\ 16 \\ 40 \end{pmatrix}$$

ピボット選択 (2)

- 方程式は下のような手順で変形すればよい.
 - 1. 1行目を 2 (= $a_{1,1}$)で割る.

2. 1行目に 2 (= $a_{2,1}$)をかけ, 2 行目から引く.

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 0 & 2 \\ 4 & 10 & 10 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -4 \\ 40 \end{pmatrix}$$

3. **1**行目に $4 (= a_{3,1})$ をかけ, 3 行目から引く

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 0 & 2 \\ 0 & 2 & -2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -4 \\ 0 \end{pmatrix}$$

ピボット選択 (3)

4. 2 行目を 0 (= $a_{2,2}$) で割る… <u>ことはできない</u>.

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 0 & 2 \\ 0 & 2 & -2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ -4 \\ 0 \end{pmatrix}$$

5. 仕方がないので, 2 行目と 3 行目を入れ替える

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 2 & -2 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ 0 \\ -4 \end{pmatrix}$$

これで, $a_{2,2}=2$ で割ることができる.

以後の作業は先の例と同じ.

このような操作をピボット選択と呼ぶ.

ここでは行を入れ替えたが, 列を入れ替えても良い.

参考

- ・ 連立一次方程式を解く方法には他にもある.
 - 直接法
 - ・ ガウスの消去法
 - LU 分解法
 - ...
 - 反復法
 - ・ ヤコビ法
 - ...

実習へ

• 連立一次方程式を解くFortran プログラムを作ってみよう.